

business 仕事の窓 report

その
3

管内経済情勢報告〈財務部〉

管内経済は、総じて 停滞感はあるものの、 明るい動きが広がりつつある。

平成十二年四月、財務部では管内経済情勢を次のとおり取りまとめました。

概況

最近の管内経済情勢をみると、公共事業が過去最高の水準となっているものの、住宅建設は引き続き低水準となっているほか、消費は総じて底固い動きとなっており、十二年度の企業の設備投資は前年度を下回る

計画となっている。

このうち、産業活動では観光は観光入込客が引き続き高水準で推移しているほか、生産は建設関連業種を中心に総じて持ち直しつつある。十二年度上期の企業収益は増益見通しとなっている。なお、雇用情勢をみると、完全失業率は高水準で推移しており、依然として厳しい状況にあるものの、このところ改善の動きがみられる。

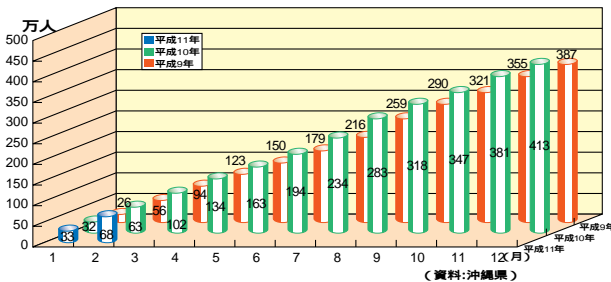
このように、管内経済は、総じて停滞感はあるものの、明るい動きが広がりつつある。

産業活動をみると、食料品は総じて低調に推移しているものの、建設関連業種では、県外出荷の増加や高水準の公共事業に支えられて、総じて堅調な動きとなっている。このように、生産は、建設関連業種を中心に総じて持ち直しつつある。

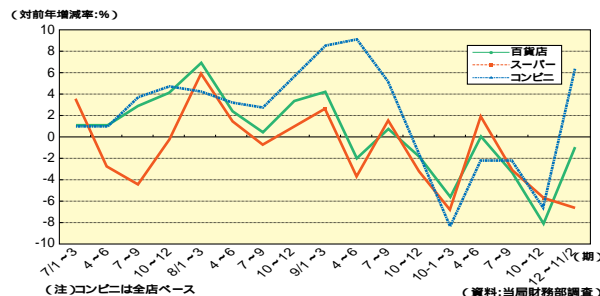
観光についてみると、観光入込客はパッケージツアー等旅行商品の低価格化のほか、新規航空路線の開設、外国大型クルーズ船の就航等の効果もあり、引き続き高水準で推移している。

個人消費をみると、耐久消費財では、家電製品販売、新車販売及び中古車販売が前年を上回っている。主要スーパー、百貨店の売上は前年を下回っているものの、コンビニエンスストアの売上は前年を上回っている。このように個人消費は総じて底固い動きとなっている。

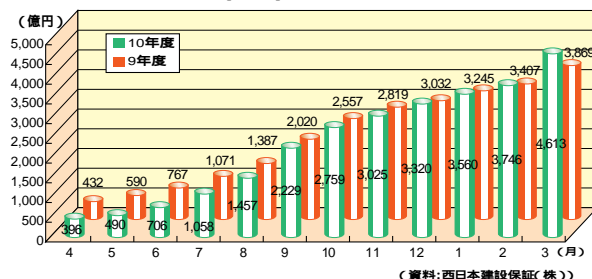
観光入込客数(累計)・・・引き続き高水準で推移



百貨店・スーパー・コンビニ売上・・・総じて底固い動き



公共工事前払保証請負高(累計)・・・過去最高の水準



設備投資をみると、十年度(実績見込み)は製造業、非製造業ともに前年度を大幅に上回っている。十年度は、現時点で不確定要素はあるが製造業、非製造業ともに前年度を下回る計画となっている。

公共事業は、経済対策の効果などから、市町村等で前年を大幅に上回っており、過去最高の水準となっている。住宅建設を新設着工戸数で見ると、持家、貸家等で前年を大幅に下回っていることから、引き続き低水準となつていくものの、先行き持ち直しの兆しが窺われる。

上期の大幅増益に支えられて増益とみていることから、全産業では増益見込みとなっている。また、十二年度上期は、製造業、非製造業ともに増益見通しとなっている。

雇用情勢をみると、完全失業率は依然として高水準で推移しているものの、このところ改善の動きがみられる。また、有効求人倍率は低水準で推移しており、依然として厳しい状況となっている。

消費者物価は、全体では引き続き安定した動きとなっている。

金融面をみると、企業の資金需要は、中小企業金融安定化特別保証制度の活用が図られたものの、全体としては低調に推移している。

企業倒産は、件数、負債金額とも前年を大幅に下回っている。